

令和六年度 励ましのことば

本日、ここに晴れの日を迎えられた皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。思い出深い学び舎を巣立ち、大きな夢や希望をもって、新たな活躍の場に踏み出そうとされる皆さんの門出にあたり、励ましのことばを贈ります。

二〇二四年十一月に九十二歳で亡くなられた詩人・谷川俊太郎さんの「生きる」という詩の一節に次のような言葉があります。

「生きているということ／いま生きているということ／

泣けるということ／笑えるということ／

怒れるということ／自由ということ」

心の中にさまざまな感情が渦巻く高校生活は、楽しいことばかりではなく、時に苦悩を抱えたこともあったでしょう。学習面や生活面、部活動や進路選択において、自分の思うようにいかず、友人や先生方、あるいは家族に対して、言葉にならない感情をぶつけたことがあったかもしれません。自分の気持ちを理解してもらえないことに孤独を感じたこともあったかもしれません。ただ、そのような状況の皆さんを救ってくれたのも、あなたの周りにいる、友人や、先生方、そして家族だったのではないのでしょうか。周囲の人々に支えられて、時には支える側になり、泣いて笑って怒って、自由を求めながらも、自由の難しさを感じ、「生きる」ことの素晴らしさに気づく、そのような時期だったのではないのでしょうか。

令和六年十一月に開催された「第四十四回近畿高等学校総合文化祭福井大会」では、皆さんがはつらつと躍動する姿に感動を覚えました。文化部の活動を中心に、十六部門の発表、展示、競技会と総合開会行事が各会場で行われました。開催に向けて、語り尽くせないほど多くの出来事が皆さんを大きく成長させたことでしょう。友人と協働して創意工夫して作品を創り上げたり、真摯に競技に向き合ったりして、見事に大会を成功させたことこそが「生きる」ことだと思っています。

これから、皆さんは予測困難な社会を生き抜くことになります。しかし、未来の地域社会を創っていくのも皆さんです。「何を目指し、何ができるか」が問われるとともに、急速に進化する生成AIに代替されない人の力が求められます。皆さんが高校時代に培った「探究力」「協働力」「挑戦力」といった力は、まさにこれからの時代を生きるために必要不可欠な糧となるでしょう。そして何より、皆さんには、大いなる可能性が秘められています。自らの可能性に挑戦し、希望ある未来を自分自身で切り拓いていく皆さんには、自分自身の人生を力強く歩んでほしいと思います。

先ほど紹介した谷川俊太郎さんの詩は、次のように結ばれています。

「生きているということ／いま生きているということ／
鳥ははばたくということ／海はとどろくということ／
かたつむりははうということ／人は愛するということ／
あなたの手のぬくみ／いのちということ」

人は、誰もが誰かに支えられながら生きています。皆さんに関わってくださったすべての方々の愛情と、かけがえのない命の尊さを理解できる人であってほしいと思います。そして、皆さんの思い出がたくさんつまったふるさと福井は、皆さんのことをいつでも応援しているということを忘れないでいてください。

結びに、校長先生をはじめとする教職員の皆様、同窓会や関係の皆様、そして地域の皆様による多大なるご支援に深く感謝を申し上げますとともに、今日まで皆さんを限りない愛情で育て、支え続けてこられたご家族の皆様に敬意を表し、励ましのことばいたします。

令和七年三月吉日

福井県教育委員会

励ましのことば